

出発。一方、自衛隊硫黄島基地隊ヘリ	〇一)に医師二名が同乗し羽田空港を	羽田航空基地のジェット機(LAJ五	して洋上救急を実施した。海上保安庁	に災害派遣を要請し硫黄島を中継地と	があった。海上保安庁は、海上自衛隊	助言を受け、船主から洋上救急の要請	葉がもつれる状態となったため、医療	組員一名が操業中体調不良を訴え、言	ら南方約八〇海里で、鮪延縄漁船の乗	- 平成二十年四月 東京都硫黄島か		(平成二十年度の主な洋上救急事例)		洋上救急事業は、昭和60年10月に 開始されてから23年を経過しました。 昨年11月末までに延べ659件、687 名の患者に対応しています。これらの 事案に対しては、医療機関や海上保安 庁、自衛隊の多大の協力と洋上救急セ ンター地方支部等関係者の連携により 円滑に遂行されています。今回は、平 成20年度の主な事例を紹介します。
r	傷	組	the			引	1	老	T	7-	董能	航っ	2	たが西国 にを〇硫〇

こなったため医療助言を受け、代理店を	ら北西方約一三二海里で、貨物船の乗	平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台		き継がれた。	つつ高知空港に搬送。患者は救急車に	を吊上げ収容し医師による治療を実施	医師二名が同乗し、洋上で該船から患	。同ヘリには、途中、高知空港におい	士三名を同乗させ関西空港を出発させ	空基地のヘリ(MH六八八)に機動救	た。海上保安庁は、関西空港海上保安	なり、代理店から洋上救急の要請があ	。 意識はあるが、身動きできない状態	梯子から足を滑らせ船倉下に転落し	一方約四九海里で、貨物船の乗組員一名	平成二十年五月 室戸岬灯台の南南		引き継がれた。	しつつ羽田空港に輸送。患者は救急車	一に移乗させ、機内で医師による治療	計 貴島に 輸送、 患者を 待機中の LAJ五	UH六〇J) が該船から患者を吊上げ
	祖員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負	紀員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負から北西方約一三二海里で、貨物船の乗	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負から北西方約一三二海里で、貨物船の乗■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負から北西方約一三二海里で、貨物船の乗■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負から北西方約一三二海里で、貨物船の乗 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負から北西方約一三二海里で、貨物船の乗がら北西方約一三二海里で、貨物船の乗がら北西方約一三二海里で、貨物船の乗	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負から北西方約一三二海里で、貨物船の乗いら北西方約一三二海里で、貨物船の乗	 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負 いら北西方約一三二海里で、貨物船の乗 「「多継がれた。 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	▲ 員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負 がら北西方約一三二海里で、貨物船の乗 小き継がれた。	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負 から北西方約一三二海里で、貨物船の乗 がら北西方約一三二海里で、貨物船の乗	□ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負 がら北西方約一三二海里で、貨物船の乗	こなり、代理店から洋上救急の要請があった。海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港を出発させた。同へリには、途中、高知空港を出発させた。同へリには、途中、高知空港を出発させた。同へリには、途中、高知空港を出た。市本市工名が同乗し、洋上で該船から患しつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知た。	□ マ成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 □ マ成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	▲員一名が作業中に鉄板に足を挟ませ負	四方約四九海里で、貨物船の乗組員一名 「「「「「「「」」」」」」」」」」 「「」」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」」」 「」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」」 「」 」 」 」 」 」 」 」 」 <	 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 二 平成二十年五月 空港町による治療を実施 二 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台の南南 二 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 二 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 二 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 二 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 二 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	 □ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 □ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 □ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 □ 二海里で、貨物船の乗組員一名 □ 小ら足を滑らせ船倉下に転落した。高へりには、途中、高知空港を引上げ収容し医師による治療を支護があった。 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台の南南 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	 記書をしつつ羽田空港に輸送。患者は救急車 二十年五月 室戸岬灯台の南南 二十年五月 室戸岬灯台の南南 二二年二次 二二年五月 室戸岬灯台の南南 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員一名 二二海里で、貨物船の乗組員 		
◎。骨が露出し、出血が止まらない状態		から北西方約一三二海里で、貨物船の乗	▶ら北西方約一三二海里で、貨物船の乗	▶ら北西方約一三二海里で、貨物船の乗■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	から北西方約一三二海里で、貨物船の乗 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	 ▶「ら北西方約一三二海里で、貨物船の乗 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	▼「「「「「「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	▶。北西方約一三二海里で、貨物船の乗た。同へリには、途中、高知空港においた。 ■ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	☆」では、「「「「」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」」	№ 一次の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人の人	♪た。海上保安庁は、関西空港海上保安市は、関西空港海上保安庁は、関西空港を出発させ、 高へリには、途中、高知空港を出発させた。 同へリには、途中、高知空港を出発させた。 同へリには、途中、高知空港においた。 日を吊上げ収容し医師による治療を実施しつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしての高知空港に搬送。患者は救急車にしての高知空港に搬送。患者は救急車にしての高知空港に搬送。患者は救急車にしての高知空港に搬送。患者は救急車にしての高知空港により、 「き継がれた。	こなり、代理店から洋上救急の要請があ 加空基地のヘリ(MH六八八)に機動救 加空基地のヘリ(MH六八八)に機動救 二三名を同乗させ関西空港を出発させ た。同ヘリには、途中、高知空港におい た。同ヘリには、途中、高知空港におい て医師二名が同乗し、洋上で該船から患 しつつ高知空港に搬送。患者は救急車に しつつ高知空港に搬送。患者は救急車に しつつ高知空港に搬送。患者は救急車に であれた。	こなり、代理店から洋上救急の要請があった。海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港海上保安た。両へリには、途中、高知空港を出発させた。同へリには、途中、高知空港を出発させた。同へリには、途中、高知空港を出発させた。 ■ ア成二十年五月 沖縄県残波岬灯台	♪ら北西方約一三二海里で、貨物船の乗から北西方約一三二海里で、貨物船の乗	○方約四九海里で、貨物船の乗組員一名 ○た。海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港海上保安庁は、関西空港海上保安市は、遠中、高知空港においた。同へリには、途中、高知空港においた。同へリには、途中、高知空港においた。 ○つ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつつ高知空港に搬送。患者は救急車にしつの高知空港に援助	 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 二 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 二 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 □ 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 ■ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 二、。 意識はあるが、身動きできない状態 こなり、代理店から洋上救急の要請があった。 海上保安庁は、関西空港をおし 、。 同へリには、途中、高知空港を出発させ 二、。 同へリには、途中、高知空港においた。 二、 一、 一、	 □ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 □ 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 □ 一名 市 二名 が 同 乗 こ せ 関 西 空 港 を 出 発 こ な り、代 理 店 から 洋 上 救 急 の 要 請 が あ こ な り、代 理 店 から 洋 上 救 急 の 要 請 が あ こ な り、代 理 店 から 洋 上 救 急 の 要 請 が あ こ な り、代 理 店 から 洋 上 救 急 の 要 請 が あ こ て つ つ 高 知 空 港 に 散 、 途 中 、 高 知 空 港 に 散 、 途 中 、 高 知 空 港 に 散 急 中 、 高 知 空 港 に 散 送 。 患 者 は 救 急 車 に こ つ つ 高 知 空 港 に 散 送 。 患 者 は 救 急 車 に お か れ た 。 □ 平成二十年五月 沖縄県残 波岬灯 台 □ 平成二十年五月 沖縄県 残 波岬 灯 台 	 マ成二十年五月 室戸岬灯台の南南 マ成二十年五月 室戸岬灯台の南南 ア成二十年五月 室戸岬灯台の南南 た。意識はあるが、身動きできない状態 た。海上保安庁は、関西空港を出発させ た。海上保安庁は、関西空港を出発させ た。両へリには、途中、高知空港においた。 市へリには、途中、高知空港におい 市本市工名が同乗し、洋上で該船から患 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 平成二十年五月 沖縄県残波岬灯台 	 こつつ羽田空港に輸送。患者は救急車に引き継がれた。 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 平成二十年五月 室戸岬灯台の南南 一二名が同乗し、洋上教急の要請があた。 一二名が同乗し、洋上で該船の乗組員一名 二二方、一二、二、二、二、二、二、二、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、機内で医師による治療 ○一に移乗させ、関西空港を出発させ ○二十年五月 ○二、 ○二、

を同乗させ、 き継がれた。 覇空港に患者を搬送。患者は救急車に引 に着陸。待機中の飛行機(LA七〇二) 東島向け那覇空港を出発した。ヘリは該 要請があった。海上保安庁は、 け、代理店を通じて船長から洋上救急の を同乗させ那覇空港を出発。該船に向わ た。 通じて船長から洋上救急の要請があ 船に着船、患者を収容し、北大東島空港 方、那覇航空基地の飛行機(LA七〇二) 基地のヘリ(MH九六〇)に降下員二名 員一名が腹痛を訴えたため医療助言を受 四 しつつ那覇空港に患者を搬送。患者は救 に患者を移乗し、 に医師一名と看護師一名が同乗し、北大 方約二〇〇海里で、原油タンカーの乗組 急車に引き継がれた。 から患者を吊上げ収容し、医師の治療を せた。那覇航空基地の飛行機(LA七九 (MH九六〇)に医師一名と潜水士二名) 平成二十年六月 海上保安庁は、那覇航空基地のヘリ による照明弾支援のもと洋上で該船 那覇空港を出発させた。一 医師の治療をしつつ那 北大東島の東北東 那覇航空 0

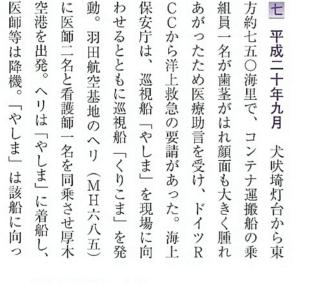
れた。	空	医	は洋上で該船から患者を吊上げ収容し、	覇空港を出発。該船に向わせた。ヘリ	看護師一名と潜水士二名を同乗させ那	地のヘリ(MH九六一)に医師一名、	が	け、	した	乗	0	五
72	港に搬送。	師による応急治療を実施しつつ奄美	涯	空	護	0)	あった。		TC	組員一名が	南東方約七四海里で自動車運搬	
	1-	12	E.	港	即	~	2	連	状	貝	泉	*
	搬	2	(°	を		リ	た	航	愿		万	成
	送	る	該	出	名	\sim		管	に	名	約	_
		応	船	発	と	Μ	海	理	な	が	七	+
	患	急	か	0	潜	Η	Ŀ	会	0	П	兀	平成二十年八月
	者	治	5	該	水	71.	保	社	た	か	海	八
	は	療	患	船	士	*	安	か	た	5	里	月
	救	を	者	12		_	庁	5	SS	泡	で	
	急	実	を	向	名	\smile	は	洋	`	を	自	奄
	重	施	市	わ	な	1-	`	E	医	吹	動	美
	12	L	E	++-	同	V-	那	救	癖	ŧ	重	大
	引	5	げ	7-	乗	区	盟	魚	助	20	運	鳥
	ŧ	2	収	0	×	间	航	Ø	言	5	搬	北
	斜米	奋	容	~	t		25	म्म	た	+-	肌	津
	患者は救急車に引き継が	电羊	L	11	E	名	海上保安庁は、那覇航空基	運航管理会社から洋上救急の要請	状態になったため、医療助言を受	口から泡を吹きぐったり	船の	奄美大島皆津崎
	12	大	•)	np.	,	45	口門	X	.,	v	hab)



自動車運搬船から患者を吊上げ作業

主から洋上救急の要請があった。海上保 六三)に移乗し、美保空港に搬送。患者 医師等を美保航空基地の飛行機(MA八 岐空港向け搬送。隠岐空港において患者 を吊上げ収容し、医師の治療をしつつ隠 に向わせた。ヘリは洋上で該船から患者 士二名を同乗させ美保空港を出発。 六)に医師一名、看護師一名と機動救難 安庁は、美保航空基地のヘリ(MH九〇 乗組員一名が具合が悪い状態となり、 ら北方約二〇〇海里で、かにかご漁船の 六 平成二十年九月 は救急車に引き継がれた。 隠岐島白島灯台か 該船 船

> 救急車に引き継がれた。 巡視船「くりこま」に到着。ヘリは燃料 吊上げ収容し、「やしま」に輸送。患者 た。羽田航空基地のジェット機(LAI 補給後、厚木空港に患者を搬送。患者は を船内に収容し、医師による治療を実施 五〇〇)の支援のもと「やしま」のヘリ 者と医師等を同乗させ「やしま」を出発。 した。その後、 (MH九三一) は洋上で該船から患者を ヘリ(MH九三一)は患



動。



巡視船「やしま」から患者をヘリに移乗作業



№ 平成二十年九月 高知県足摺岬灯	一)に潜水士二名を同乗させ那覇航空基
台から南南東方約三一三海里で、かつ	地を出発。巡視船「りゅうきゅう」に向
お一本釣り漁船の乗組員一名が右足首	わせた。ヘリは「りゅうきゅう」に着船
等に凍傷を負ったため医療助言を受け、	し、「りゅうきゅう」は該船に向った。
船主から洋上救急の要請があった。海	巡視船「りゅうきゅう」の搭載ヘリ(M
上保安庁は、巡視船「さつま」を現場	日九二九)は洋上で該船から患者を吊上
に向わせるとともに海上自衛隊鹿屋基	げ収容し、「りゅうきゅう」に搬送。那
地に災害派遣を要請した。鹿児島空港	覇航空基地のヘリ(MH九六一)に医師
において、海上自衛隊岩国基地の飛行	二名を同乗させ那覇空港を出発。「りゅ
艇(US―一)に医師一名と看護師一	うきゅう」に着船し、船内で医師による
名が同乗。該船に向った。飛行艇は洋	治療を開始した。ヘリ(MH九六一)は
上で該船から患者を収容し、医師によ	患者、医師等が同乗し、「りゅうきゅう」
る治療をしつつ海上自衛隊鹿屋基地に	を出発。那覇空港に着陸。患者は救急車
着陸。鹿屋基地において海上保安庁の	に引き継がれた。
鹿児島航空基地のヘリ(MH九〇七)	
に患者を移乗し、谷山ヘリポートに患	十] 平成二十年十一月 高知県室戸岬灯
者を搬送。患者は救急車に引き継がれ	台から南方約九八海里で、LNGタンカ
た。	ーの乗組員一名が全身に赤い発疹が発現
	したため、船長から洋上救急の要請があ
九 平成二十年十一月 沖縄県喜屋武	った。海上保安庁は、関西空港海上保安
岬から南南東方約五八七海里で、鮪延	航空基地のヘリ(MH六八七)に機動救
縄漁船の乗組員一名が嘔吐、腹痛を訴	難士二名を同乗させ南紀白浜空港向け、
えているため医療助言を受け、船主か	関西空港を出発。途中、南紀白浜空港で
ら洋上救急の要請があった。海上保安	医師一名を同乗させ該船に向った。ヘリ
庁は、那覇航空基地のヘリ(MH九六	は関西空港海上保安航空基地の飛行機

者は救急車に引継がれた。 療を実施しつつ南紀白浜空港に着陸。患 から患者を吊上げ収容し、医師による治 (MA九五四)の支援のもと洋上で該船



医師によるヘリ機内での治療作業